

■ IEC/TC100ソウル会議の報告

■ 第68回 IECソウル大会の概要

IEC/TC100ソウル会議の報告 — 幹事国として初の総会を開催 —

■ IEC/TC100の概要

IEC/TC100は、「オーディオ、ビデオ、マルチメディアシステム及び機器」に関連する事項の国際標準化を行っており、民生用・業務用の機器の性能、測定方法及びマルチメディアシステムの応用、システムと機器間のインターオペラビリティ等の規格化を推進しています。

TC100は7つのTA (Technical Area)、TC直轄のPT (Project Team)、AGS (戦略諮問会議)、AGM (運営諮問会議) 及び規格の保守を担当するGMT (General Maintenance Team) から構成されています。

TC100は、他のTCにおけるSC (Sub Committee) に相当する複数のTA (技術領域) からなり、迅速かつ柔軟に対応できる組織運営を行っています。現在、TAとしては、TA1 (オーディオ、ビデオ、データサービス用端末)、TA2 (カラーマネジメント)、TA4 (デジタルシステムインタフェース)、TA5 (ケーブルネットワーク)、TA6 (業務用ストレージ)、TA7 (民生用ストレージ) 及びTA8 (マルチメディアホームサーバシステム) があり、各分野に対して業界共通のインフラ作りの規格化に取り組んでいます。

当該分野における主な活動は日本が中心となっているため、必然的に技術が先行している日本は、各TAの役員、PL (Project Leader) を数多く引き受けており、日本からの国際規格化の提案が、全体の50%以上を占めています。更には、2004年1月1日から、幹事国がオランダから日本へ移管されたため、日本が国際幹事及び国際副幹事を務めており、名実ともに中心的な役割を果たしています。

■ ソウル会議の概要— 幹事国として初の総会

今回の会議は、第68回IECソウル総会 (General Meeting) に併設する形で、ソウル市内のロッテホテルで開催されました。

10月15日 (金) から20日 (水) までの会期で、

AGM、AGS、各TA・各PT会議、総会が行われ、全会議を通して12カ国から延べ222名が参加しました。

AGS会議はTC100内でのSB (セクターボード) レベルの組織で、その結果を直接SMB (標準管理評議会) に報告するという非常に重要な役割を持っています。日本が議長を務めており、長期的かつ戦略的な新規規格化の提案を諮問する位置付けにあります。

今回は、日本からの提案である、Multimedia Privacy Protection (民生用機器のプライバシー保護に関するガイドライン)、AV lip sync (Audio とVideo のリップシンクに関する測定方法など)、電子出版・e-book (XMLベースの中間コンテンツ記述フォーマットと権利記述フォーマット規定) などについて議論され、新規テーマとして規格化を進めることが、今後の行動計画の中に盛り込まれました。

AGM会議では、TC100ルールの運用を明確にするために、業務指針の改訂とSPS (運営指針計画書) 改訂の提示、リエゾンリストの見直しが行われました。リエゾンでは、ISO/IEC JTC1 (情報技術) との関係強化を図っているところです。

各TA・PTの会議では、TA役員のマネージメントのもとに日本のPLが議論の中心となって審議が行われ、各プロジェクトを順調に進めることができました。

TC100総会は、最終日の20日に行われ、12カ国48名が出席しました。日本からは、高木幹雄国内委員長を代表として、国際役員も含め22名が出席しました。AGM/AGS、各TA等からの報告、SPSとTC100業務指針の改訂案等が承認されました。



写真1. IEC/TC100総会の様子

関連サイト：日本工業標準調査会（JISC）<http://www.jisc.go.jp/international/isoiec.html>
 ：日本規格協会／IEC活動推進会議（IEC-APC）<http://www.iecapc.jp/>

■ 今後の課題・求められるネットワーク化への対応

TC100の会議全体は、平川秀治国際幹事、江崎正国際副幹事、日本の各TAM、TS及びPLの活躍によって円滑に進められました。中国は、国策として国際標準化を重視しており、韓国の6名よりも多い7名が参加しました。オランダが幹事国を降りたことでも判るように、欧州の貢献が低下していることが懸案されます。韓国は昨年、国際役員（TA4のTechnical Secretary）を引き受けて以来アクティブになりつつあり、韓国の新規提案も出てきています。アジア各国、特に中国、韓国との戦略的な連携が、TC100の活性化、及び日本にとっても最大の課題と思われれます。

TC100が扱うテーマは、ネットワークとCE機器のハード・ソフトが一体となった分野に移行しています。コンテンツプロテクション、プライバシー保護等に関して、AVマルチメディアとしての取組みを行っていく必要性が出てきており、新しいTAの設置も視野に入れた検討が必要になると考えられます。ネットワーク関係では、関連標準化組織であるITU（国際電気通信連合）やISO/IEC JTC1、IEEEといった実績のある機関やフォーラム、コンソーシアム等との連携が重要になってきます。幹事国としては、フレキシブルにリエゾン対応を図っていくことが重要であると考えています。

特に、この分野は日本の電子産業の中核であり、また国策としても重要な位置付けにあることから、経済産業省、IEC活動推進会議等、関係する機関・団体からの一層の強力なサポートが強く望まれます。



写真2. 左からHyman議長、平川国際幹事、江崎国際副幹事

第68回 IECソウル大会の概要

－韓国で初のIEC総会を開催－

■ 総会の概要

日時：2004年10月22日（金） 8:30～12:15

場所：韓国／ソウル市 ロッテホテル

参加：53カ国 134名

日本からの参加者は、山本卓眞JISC会長（Head of Delegation）、藤野真司室長（JISC事務局原山審議官代理）、油本暢勇CB委員、森紘一SMB委員、原田節雄APC運営委員長（次期SMB委員）でした。なお、今回からカザフスタンが新規加盟し、63番目のIEC加盟国となりました。

■ 議事の概要

➤ 主な事項

- 高柳誠一会長（日本）から、以下の方針が示されました。
- ・新マスタープランを作成し、目標の達成に努める。IECとしても規格の迅速化等の対応を図っているが、産業界の技術進歩が著しく早いので、一層の努力を行う。
 - ・産業、学会などのキー・マーケットプレイヤーの参加を促す。第一の参加は工業会である。
 - ・IEC活動に参加している専門家は、「国際標準」の重要性を認識しているが、企業等のトップマネジメントの理解が必ずしも十分ではないので、広報に努める。
 - ・標準化を効率的に推進するためには、水平標準（ホリゾンタル・スタンダード）が重要である。
 - ・市場／消費者指向が重要であり、製造側のみの論理では成り立たない。

➤ 会長の交代

任期満了のため、今回の総会で、高柳会長からイタリアのTani氏に会長が交代することが決定され、2005年1月1日に就任予定となりました。

高柳氏は、今後、前会長（今回新設）職として、引き続き2年間勤務される予定です。

➤ 今後の「IEC総会」の開催予定

2005年 第69回 南アフリカ（ケープタウン）

2006年 第70回 イギリス（ロンドン）IEC創立100周年記念

2007年 第71回 フランス（ボルドー）